

「英語で教室から世界とつながる」プラットフォーム事業

“Opening a New World from the Classroom” Project, Hiroshima



Yupparaj Wittayalai School



世羅町立世羅中学校

交流授業

学 年：第3学年
単元名：地域や学校について紹介しよう
ねらい：異なる文化をもつ相手と、身近なことについて、簡単な表現でやり取りをすることができる。

生徒が説明用に作った動画



ブレイクアウトルームでの会話



活動内容：

①自己紹介（グループ）

相手校の生徒1名と本校の生徒2名程度でグループに分かれ、そのグループの中で互いに自己紹介をし合った。

②地域紹介（グループ）

自己紹介に続き、グループで地域紹介を行い、地域の特色が分かるように説明した。日本全体のイメージと本校の所在する地域とでは、たくさんの違いがあることを意識して説明する内容を工夫した。また、説明の際は、事前に準備をした画像やスライド等を使って、画面共有をしながら、英語で紹介した。

③学校・学校行事の紹介・やり取り（グループ）

本校特有の学校行事について説明した。その際、なるべく画面共有をして、言語で伝わりにくいところは、視覚的に分かるように工夫した。また、互いの説明について、質問をしたり、感想を伝えたりする等、その場でやり取りをした。

«接続方法：Zoom»

大切にしたこと

- 自己紹介や学校紹介等、伝えたい内容が決まっていることは、事前に準備をする時間をとって生徒に英文や画像、動画等を作らせた。
- 互いの国の違いや共通していることを知るために、事前に相違点や共通点に関する質問を生徒とともに考えておいた。
- その場でのやり取りでは、意思疎通ができたこと自体を評価した。

交流を終えて

生徒の声

- 共通して好きなK-Popの話や日本のアニメの話に話題が移り、自分が伝えたいことが伝わって嬉しかった。
- タイの料理のガパオライスを総合的な学習の時間につくって、写真を見せたら、タイのものと一緒に言われてうれしかった。
- 接続がうまくいかなかったり、相手の声が聞こえにくい時は難しかった。
- 自分が想像していたようにうまくコミュニケーションを図ることができなかったが、楽しかった。

先生の声

- コミュニケーション活動に最初は不安を感じていたが、このような経験をすることで生徒に自信がつき、一定の成果はあったと感じている。
- 教室の生徒の配置については、丁寧にシミュレーションを重ねて、事前接続の時に試してみることが必要だと感じた。
- 生徒をグループに分ける際には、グループ編成やブレイクアウトルームの作り方等も併せて相手校と事前に検討・確認することが大切だと思った。